

第5章 温室効果ガス等環境調査

1 目 的

二酸化炭素等の温室効果ガスについて、環境中の濃度の測定を行い、経年変化を把握することにより、排出抑制等の地球温暖化に係る指導啓発のための基礎資料とする。

また、オゾン層を破壊する特定フロン等について、環境中の濃度の測定を行い、工場等に対する使用合理化、排出抑制等の指導啓発のための基礎資料を得る。

2 調査方法

(1) 調査地点

図5 - 1 に示す次の4地点で調査を実施しました。

- 豊川市・豊川市役所 (以下、「豊川市」とする。)
- 小牧市・小牧高校 (以下、「小牧市」とする。)
- 安城市・安城農林高校 (以下、「安城市」とする。)
- 一宮町・東三河高等技術専門学校 (以下、「一宮町」とする。)



図5 - 1 調査地点

(2) 調査項目

表 5 - 1 に示す 10 項目について調査を実施しました。

表 5 - 1 調査項目

調査 地点	調査対象 項目 性質	二酸化炭素 亜酸化窒素	HFC134a	フロン 11 フロン 12 フロン 113	HCFC22 HCFC141b	四塩化炭素 1,1,1-トリクロロエタン
	温室効果ガス	○	○	○	○	○
	オゾン層破壊物質			○	○	○
豊 川 市			○	○	○	○
小 牧 市			○	○	○	○
安 城 市			○	○	○	○
一 宮 町		○				

(3) 調査期間及び調査頻度

平成 17 年 4 月から平成 18 年 3 月まで

調査項目ごとの調査頻度を表 5 - 2 に示します。

表 5 - 2 調査頻度

調 査 項 目	調 査 頻 度
二酸化炭素	自動連続測定
亜酸化窒素、HFC134a フロン 11、フロン 12、フロン 113 HFC134a、HCFC22、HCFC141b、 四塩化炭素、1,1,1-トリクロロエタン	年 4 回

(4) 試料採取方法及び分析方法

調査項目ごとの試料採取方法及び分析方法を表 5 - 3 に示します。

表 5 - 3 試料採取方法及び分析方法

調 査 項 目	試料採取方法	分析方法
二酸化炭素	非分散型赤外線ガス分析計を用いた自動連続測定装置により測定	
亜酸化窒素	テドラーバッグにより 試料を採取	ガスクロマトグラフ装置 (ECD) により測定
H F C 1 3 4 a	キャニスターにより 試料を採取	ガスクロマトグラフ質量分析装置 により測定
フロン 11、フロン 12、 フロン 113		
H F C 1 3 4 a H C F C 2 2 H C F C 1 4 1 b		
四塩化炭素		
1,1,1-トリクロロエタン		

3 調査結果

各調査項目ごとの結果を表 5 - 4 に示します。

二酸化炭素の年平均値は 395.1ppm であり、平成 16 年度より 5.7ppm 増加しました。

亜酸化窒素の年平均値は 0.33ppm であり、平成 16 年度と同じでした。

HFC134a の年平均値の県平均は 0.12ppb であり、平成 16 年度と同じでした。

フロン の年平均値の県平均は、フロン 11 が 0.25ppb 、フロン 12 が 0.54ppb 、フロン 113 が 0.07ppb であり、平成 16 年度とほぼ同程度でした。

HCFC22 及び HCFC141b の年平均値の県平均はそれぞれ 0.44ppb、0.05ppb であり、平成 16 年度より HCFC22 は 0.11ppb 増加、HCFC141b は 0.08ppb 減少しました。

四塩化炭素の年平均値の県平均は 0.10ppb であり、平成 16 年度 (0.12ppb) より 0.02ppb 減少しました。

1,1,1-トリクロロエタンの年平均値の県平均は 0.02ppb であり、平成 16 年度 (0.03ppb) より 0.01ppb 減少しました。

表 5 - 4 温室効果ガス等の調査結果 - (1)

調査地点	二酸化炭素(ppm)	亜酸化窒素(ppm)				
	年平均値	年平均値	春季	夏季	秋季	冬季
一宮町	395.1	0.33	0.33	0.33	0.33	0.33
(名古屋市天白区) (注 1)	406					
(岩手県大船渡市) (注 2)	382.4	0.320				

(注 1) 「平成 17 年度二酸化炭素濃度年報」(名古屋市)

(注 2) 「気候変動監視レポート 2005」(気象庁)

調査地点	H F C 1 3 4 a (ppb)				
	年平均値	春季	夏季	秋季	冬季
豊川市	0.11	0.07	0.07	0.09	0.22
小牧市	0.10	0.08	0.09	0.11	0.10
安城市	0.15	0.06	0.08	0.14	0.33
県 平 均	0.12				
(北海道) (注 3)	0.042				

(注 3) 北海道のデータは 17 年度 (2005 年 8 月、2006 年 1 月、3 月) の平均値
「平成 17 年度オゾン層等の監視結果に関する年次報告書」(環境省)

表 5 - 4 温室効果ガス等の調査結果 - (2)

調査地点	フロン 1 1 (ppb)					フロン 1 2 (ppb)				
	年平均値	春季	夏季	秋季	冬季	年平均値	春季	夏季	秋季	冬季
豊川市	0.25	0.25	0.22	0.27	0.26	0.54	0.54	0.47	0.57	0.59
小牧市	0.25	0.25	0.22	0.27	0.26	0.55	0.54	0.49	0.58	0.57
安城市	0.25	0.26	0.23	0.24	0.27	0.52	0.54	0.47	0.48	0.59
県 平 均	0.25					0.54				
(川崎市) (注 4)	0.28					0.57				
(北海道) (注 4)	0.24					0.55				

調査地点	フロン 1 1 3 (ppb)				
	年平均値	春季	夏季	秋季	冬季
豊川市	0.08	0.07	0.08	0.07	0.08
小牧市	0.07	0.07	0.07	0.06	0.08
安城市	0.07	0.07	0.07	0.05	0.08
県 平 均	0.07				
(川崎市) (注 4)	0.08				
(北海道) (注 4)	0.08				

調査地点	H C F C 2 2 (ppb)					H C F C 1 4 1 b (ppb)				
	年平均値	春季	夏季	秋季	冬季	年平均値	春季	夏季	秋季	冬季
豊川市	0.48	0.23	0.90	0.26	0.52	0.04	0.03	0.03	0.04	0.07
小牧市	0.37	0.40	0.29	0.34	0.43	0.06	0.04	0.06	0.06	0.06
安城市	0.49	0.23	0.28	0.26	1.18	0.06	0.06	0.04	0.04	0.11
県 平 均	0.44					0.05				
(北海道) (注 4)	0.18					0.02				

調査地点	四塩化炭素 (ppb)					1,1,1-トリクロロエタン (ppb)				
	年平均値	春季	夏季	秋季	冬季	年平均値	春季	夏季	秋季	冬季
豊川市	0.10	0.11	0.09	0.10	0.10	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
小牧市	0.10	0.11	0.09	0.10	0.10	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
安城市	0.10	0.11	0.09	0.09	0.10	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03
県 平 均	0.10					0.02				
(川崎市) (注 4)	0.10					0.02				
(北海道) (注 4)	0.09					0.02				

(注 4) 川崎市のデータは、2005 年 3 月～2006 年 2 月の中央値。北海道のデータは 17 年度
(2005 年 8 月、2006 年 1 月、3 月) の平均値
「平成 17 年度オゾン層等の監視結果に関する年次報告書」(環境省)

平成 17 年度の二酸化炭素の月間値を表 5 - 5 に、月平均値の推移を図 5 - 2 に示す。また、調査項目ごとの年平均値の経年変化を表 5 - 6 及び図 5 - 3 に示します。

表 5 - 5 二酸化炭素の月間値

区 分 年 月		測 定 日 数	測定時間	月平均値	1 時間値の 最 小 値	1 時間値の 最 大 値
		(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(ppm)
平成 17 年	4	29	676	396	375	437
	5	31	744	395	375	432
	6	30	715	399	355	464
	7	31	744	395	355	456
	8	31	718	392	349	450
	9	30	720	395	357	448
	10	31	744	397	368	450
	11	30	720	394	366	428
	12	30	686	394	379	438
平成 18 年	1	31	744	394	378	459
	2	13	312	394	381	433
	3	31	733	398	380	455
通 年		322	7526	395	349	464

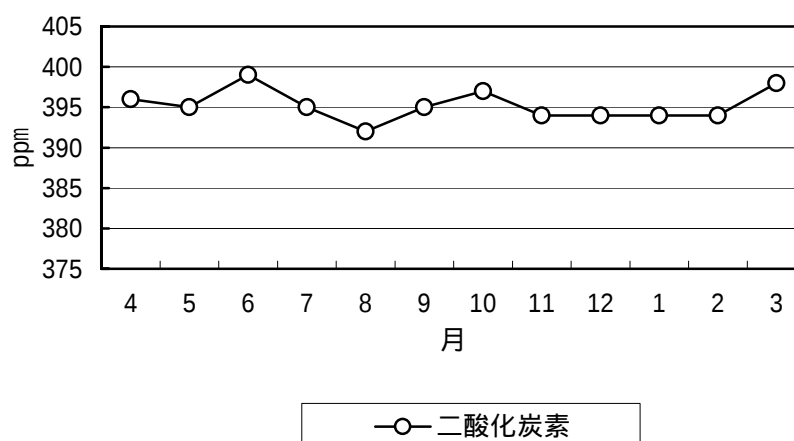


図 5 - 2 二酸化炭素の月平均値の推移

表 5 - 6 二酸化炭素等の年平均値の経年変化

項目 \ 年度	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
二酸化炭素 (ppm)	374	377	380	386	390	385	385	390	389	395
亜酸化窒素 (ppm)	0.31	0.31	0.32	0.32	0.33	0.33	0.33	0.33	0.33	0.33
H F C 1 3 4 a (ppb)	-	-	-	0.10	0.20	0.15	0.09	0.14	0.12	0.12
フロン 1 1 (ppb)	0.26	0.24	0.23	0.28	0.25	0.26	0.27	0.26	0.27	0.25
フロン 1 2 (ppb)	0.63	0.61	0.61	0.61	0.54	0.56	0.60	0.61	0.55	0.54
フロン 1 1 3 (ppb)	0.11	0.10	0.09	0.09	0.10	0.09	0.08	0.08	0.09	0.07
H C F C 2 2 (ppb)	-	-	-	0.38	0.65	0.42	0.27	0.34	0.33	0.44
H C F C 1 4 1 b (ppb)	-	-	-	0.14	0.21	0.15	0.06	0.10	0.13	0.05
四塩化炭素 (ppb)	0.09	0.11	0.11	0.10	0.10	0.11	0.10	0.10	0.12	0.10
1,1,1-トリクロロエタン(ppb)	0.24	0.11	0.07	0.08	0.07	0.05	0.04	0.03	0.03	0.02

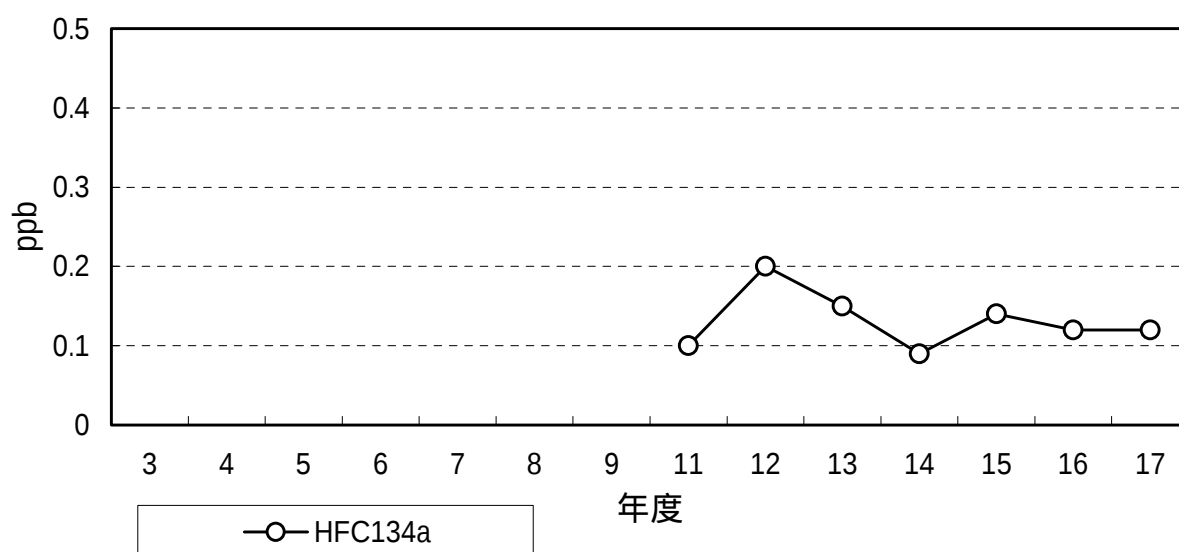
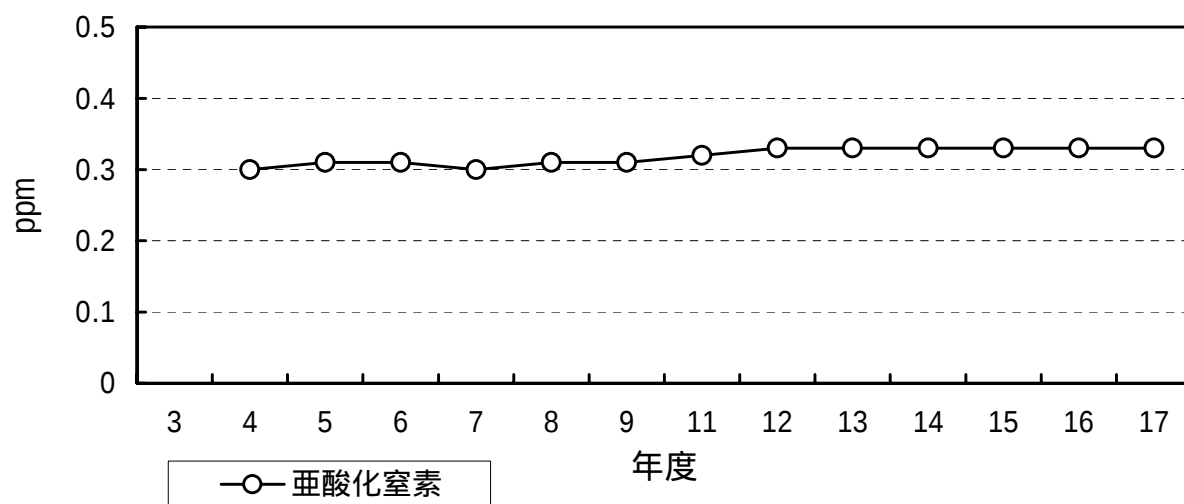
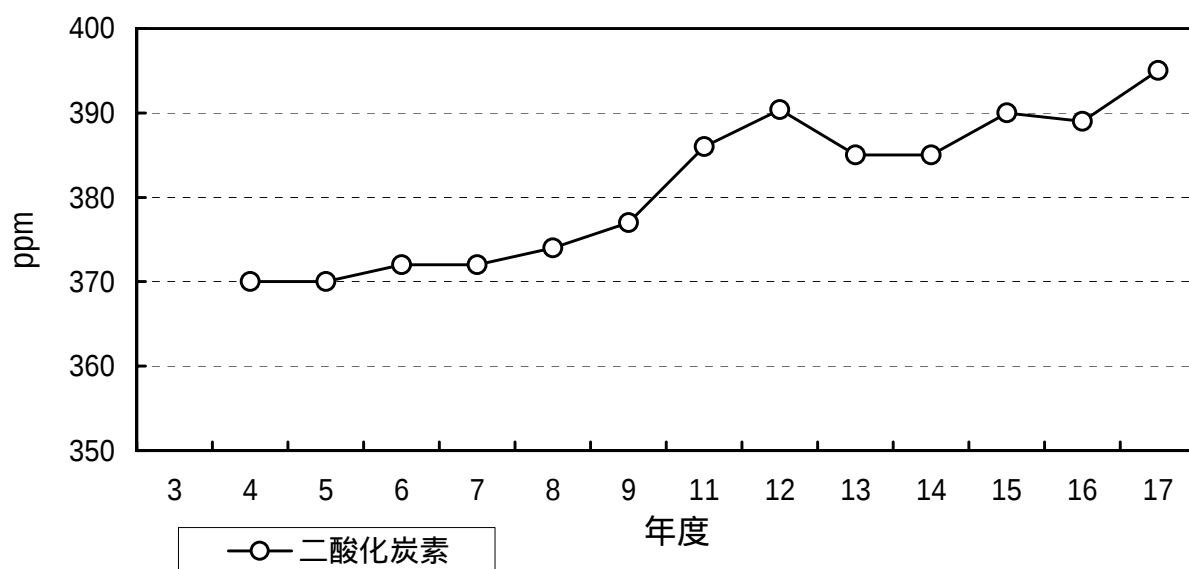


図5 - 3 二酸化炭素等の年平均値の経年変化 - (1)

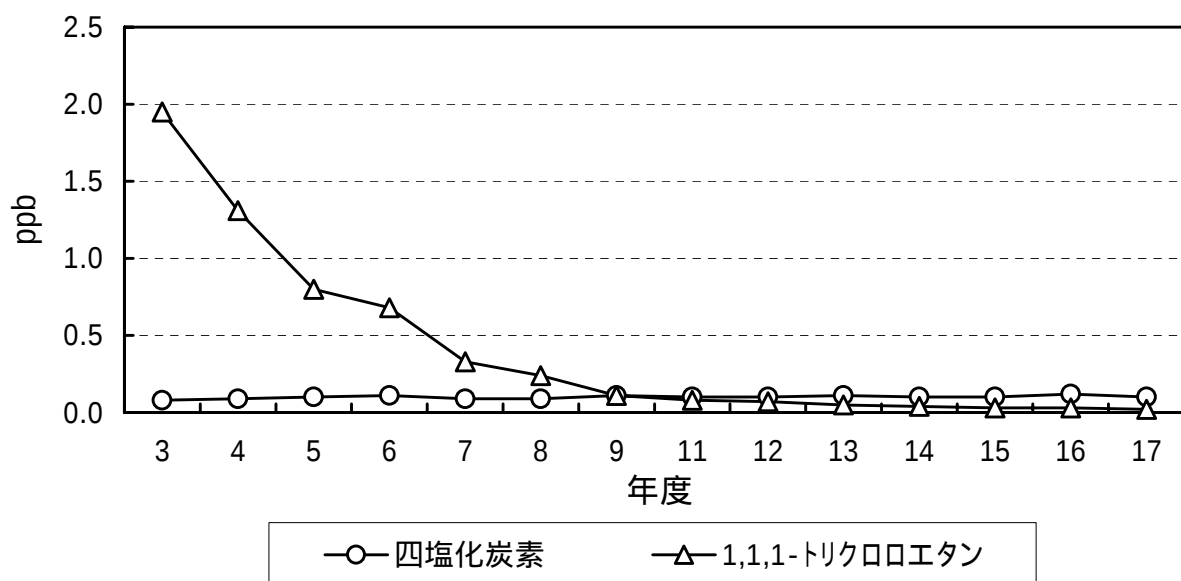
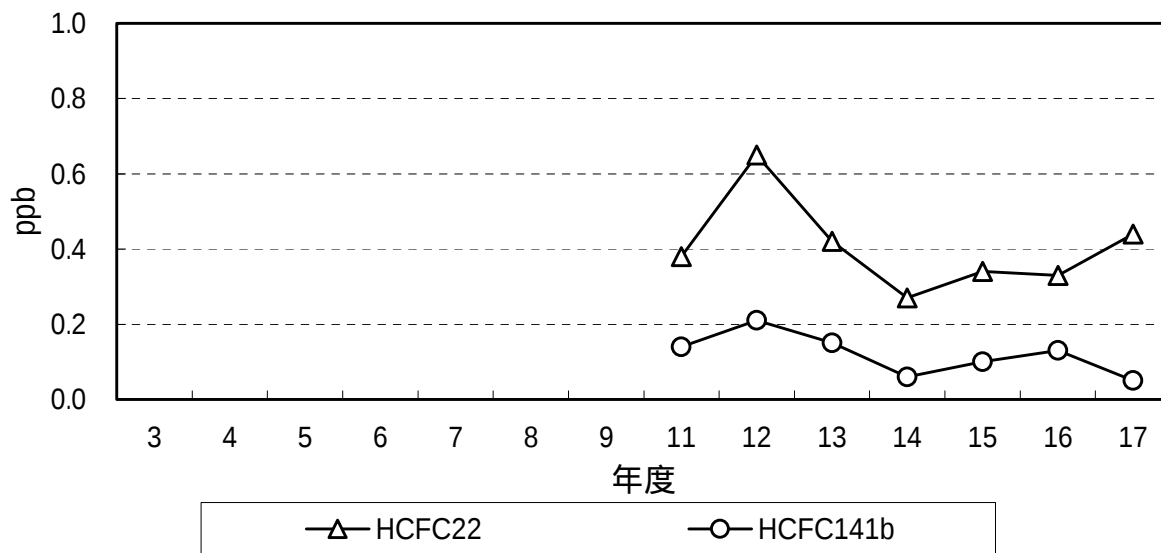
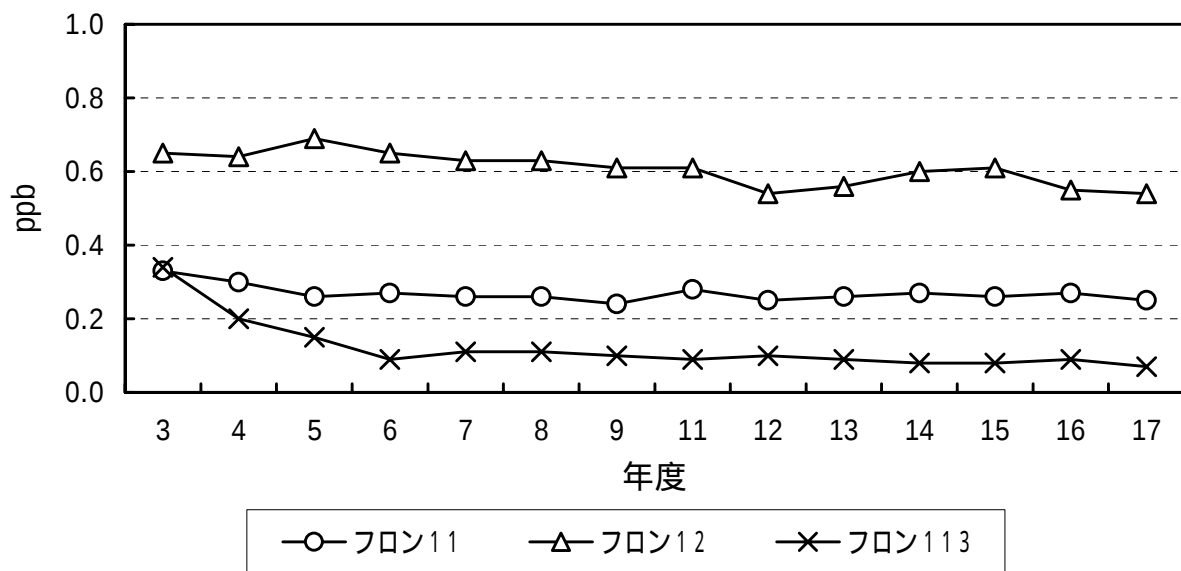


図5 - 3 二酸化炭素等の年平均値の経年変化 - (2)